



ご挨拶

四月になり、新年度も始まりました。継続して公民館長をさせていただくことになりました。よろしくお願い致します。
さて、この春は新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、感染者が拡大している状況で緊急事態宣言が発令され、人との接触は制限され、学校も休校になり、すべての行事は中止となりました。せっかくの春の陽気に浮き立つ気分をぐっとおさえるのは苦痛ですが、今は我慢しましょう。コロナに打ち勝つ時は必ずきます。力を合わせて頑張りましょう。

【「創造の森」 春のお花紹介】

本谷の村より500mほど登った先にある「創造の森」では、以前は毎年6月の始めに村人総出で『にふれあい祭り』が開催され、ステージで踊りなどが披露され、特産物や食べ物を売るバザーのお店が軒をつらね、神戸からブナを植える会が植樹に訪れたりして、多くの来場者でにぎわいました。しかし、祭りが開催されなくなって、ほとんど訪れる人もいなくなりました。でも、ここのブナ林は春の芽吹きのと時期になると多くの珍しい花を見ることができます。

公民館の4月の行事で「春の野草のお花観察」を予定していましたが、中止にしたので、その代りにここに創造の森やその周辺で見られる春のお花の一部を紹介します。もし良ければお花に会いに行ってみてください。

・ハグロシハイスミレ

次に挙げるシハイスミレの変種で、葉が黒紫色をしています。尾根の登山道ぞいに自生しており、落葉の間から小さな薄紫色の花を咲かせています。最近シカが食べるので数が少なくなっています。



・シハイスミレ

葉の裏側が紫色を帯びることから、紫背と名前がつけられました。花は少し薄い赤紫をしています。先のハグロと混生して自生していますが、こちらは少ないようです。



・オオイワカガミ

尾根沿いの林床に群生しており、冬でもつやつやした光沢のある葉をしています。ピンク色の花が茎の先に数個集まって咲いていますが、白っぽいものや赤味の強いものなど、花の色に変異があります。



・サンインシロカネソウ

大滝の岩場、水しぶきのかかる場所にひっそりと咲いている小さなお花です。薄黄色の花びらの付け根が少し赤くアクセントがあります。創造の森以外でも久斗山の沢沿いを探すと見つかることがあります。



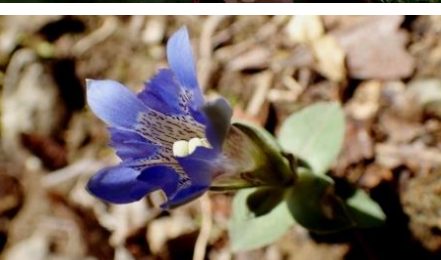
・イワナシ

土の露出した崖地に張り付くようにして、自生しています。常緑の葉には細かい毛が生えています。花は小さなピンク色をしています。丸い実を付けて、熟すと表面の皮がめくれ、中身が梨の味がします。



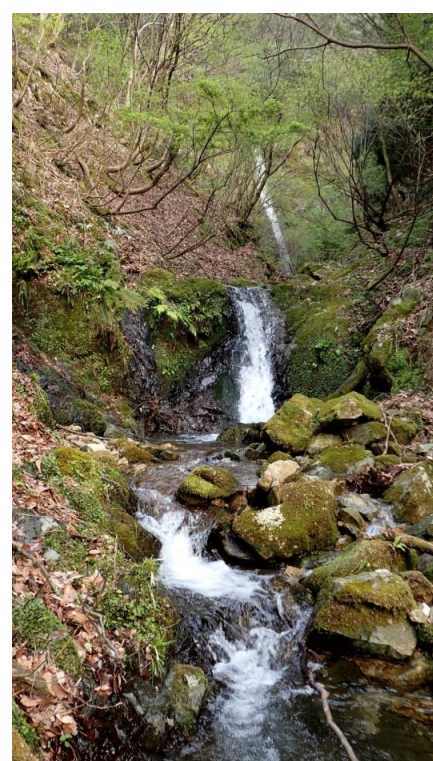
・フデリンドウ

春に咲く、高さが10cmにも満たない小さなリンドウの仲間です。昨年、大滝に行く途中の山道で初めて見つけておお喜びしたけど、今年は発見できませんでした。シカに食べられたのかな？

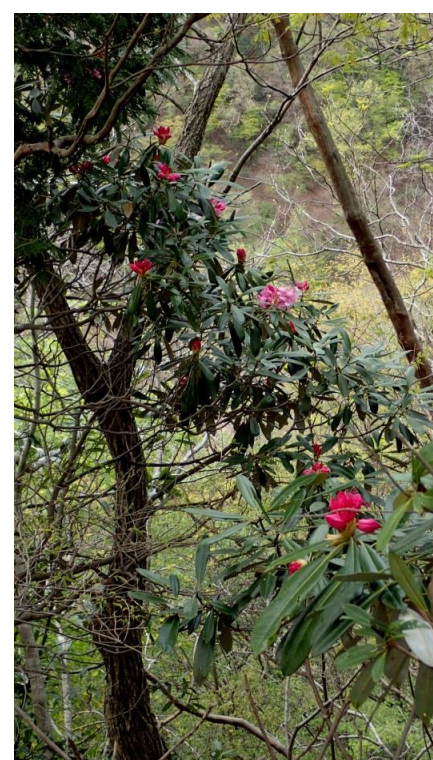


・シャクナゲ

4月下旬に尾根沿いの登山道を登ると、ブナ林の中にピンク色の花が見られます。今が見ごろです。



創造の森の大滝：下に小さな滝が連なる



ブナ林に咲くシャクナゲ

【カブトムシの幼虫がいっぱい！】



境の田村保さんより「カブトムシの幼虫がようけおるけど欲しい人はいないか？」との声がかかり、見にくくと2年間置いて土になった木材チップの中から数百からの幼虫が出てきました。引き取り先を問合せたところ、浜坂東小学校の先生より、各小学校で飼いたいとのことで、100匹ほど持参しました。さらにSNSで欲しい人を募ると、香美町の「兎和野高原野外活動センター」と、「宙の森ホテル花郷里」より希望がありました。夏には多くの成虫が羽化し、子供を喜ばせてくれるでしょう。

【これからの季節、山蛭（ヤマビル）にご用心！】

鹿が増えるといっしょに付いてくるのがマダニとヤマビル。ヤマビルは久斗山の山には昔は居ませんでした。しかし、最近池ヶ平や本谷、久斗山の山でも増えています。地表を這ったり時には木の枝先にいて、動物の体温と発する二酸化炭素を感じて取り付きます。衣類の合わせや袖口から入り、皮膚の上から吸血します。痛みも何も感じません。取り除いてもしばらく血が止まりません。とにかくご用心！



【役員の引継ぎ、新隣保役さん1年間お世話さまです】

新年度になり、久斗山では4月5日に役員の引継ぎ会が行われました。村役員は2年任期のため、今年度は改選がありませんでしたが、隣保役員が交代しました。月々の配布物など、新隣保役は1年間お世話になります。引継ぎの後、村の書庫より過去の記録書類を虫干しを兼ねて確認しました。



久斗山のこれまでの記録が綴られた書類

○令和2年 5月の行事

5日(火) こどもの日

16日(土) 扇ノ山新緑登山(9:00～15:00) 上山高原エコミュージアム

17日(日) 自然教室「春の遠足」(9:00～14:00)久斗山地区公民館



新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態のため、行事が自粛されています。



タニギキョウの花

今月の野草

タニギキョウ

山地の少し湿った場所や谷沿い、田んぼの水路などに自生。四月の半ばごろから、苔のように地表を覆った葉の中から数センチ伸びた茎の先に、細長い花弁の白い花が咲きます。花は群生して咲きますが、よく注意しないと気づかない、小さな可憐な花です。

かつてに昔話
熊に育てられた娘（第一話）
作、いっこう

この頃は野生動物が餌を求めて人のすぐ近くに出てきますが、昔は人が山の中にどんどん入って離れたから、今も昔も人と動物の距離はそんなに変わらないのかもかもしれません。山里の人と野生動物は時に敵同志になります。同じ山に棲む仲間でした。だから、こんな出来事があったのも不思議じゃないのでしょうか。

その年の冬は、例年になく暖冬で雪の少ない冬でした。しかし春になってもいつまでも寒く、彼岸が過ぎて草や木が芽吹く頃になっても冷たい北風が吹いてミゾレが降り、天気が悪い日が続きました。やっと四、五日晴れ間あつて、畑の土も乾いてきました。

その日、本谷に住む若嫁は、五ヶ月になった娘のはなを背負って山の奥の畑をクワで耕しにきていました。はなは最近お乳をよく飲むので、重くなってきました。最初はお乳を背負っていましたが、お乳を飲ませた後、はなが眠ったので畑のそばの枯草の上に綿入れに包んで寝かせて、畑仕事をしました。

その日、一頭の若い牝の熊が畑の近くの藪に潜んでいました。その牝熊は、その年の冬に一頭の子を出産しました。牝熊にとって初めての子で、胸に抱いて乳を与え、母性本能に目覚めるのでした。しかし、春になって巣穴から出た直後、暖冬で冬眠していなかった牝熊の襲撃を受けて、子熊を牡に殺されてしまったのです。動物とはいえ、愛しい子が殺された悲しみは図り知れません。

若嫁は違和感を覚えて、手を止めてはなの方に目を向けました。「ん？はなはどこだ？」（つづく）